

評価対象研究開発課題等に対する事前意見

1. 受益者の効用に着目した社会資本水準の評価に関する研究（事前評価）

○昨年 7 月の書類に比して格段に具体性が増しており、十分有用な研究と考えるが以下の点に配慮されたい。

リスクコントロールの最終目標は、それぞれの行動主体の「過失」が他者に及ばないこと、と定義できるが、実は過失の中身についての検討は十分ではない。

自動車事故による死亡でも、暴走による自爆事故まで死亡リスク計算の分子に入れては上記の目標とは齟齬を生じるわけで、誰の誰に対する過失を減らしたいのか、について議論が必要であろう。

蛇足ながら、図 2¹に保険料と保険金の図がありますが、多くの保険では、保険会社の利益があるので、保険金は保険料の半分以下です。この辺、表現が難しいと思われる。

○大変重要なテーマであり、国総研で取り組むべきものであるという全般的な印象を受けました。しかし、私の専門分野と異なるため、詳しい意見はありません。

○必要性、方法については、妥当と思います。

①サービス水準と整備水準は同じでしょうか。財とサービスの関係を明確にしてください。

②シビルミニマムをどのように設定するのが良かを考えてください。

○必要性：極めて重要な課題であり、必要性を十分に認める。

効率性：マクロ分析とミクロ分析で情報の共有化を図るとの記述があるが、まさにこの部分をどのように行うかが重要な課題であると判断される。その意味では、ここをどのようにクリヤーしていこうとしているか不明である。

有効性：意思決定を行うグループをどのように想定しているか不明である。すなわち、社会資本整備水準の評価手法による結果をだれがどのように使用するのかが不明なため、単に、事業推進者または計画者のための手法になり、国土技術政策への反映を通じた社会への貢献がスムーズに進むか不明である。

○Page 4²：まちづくり：まちづくりは、広範囲にわたるので、限定した形での検討が必要ではないか。例として、まちのにぎわいづくり、中心市街地活性化、防災、高齢者対応、新都市拠点整備などがあげられてはいるが。

Page 4²：「マクロの多変量解析、表明選好法などのミクロ分析という分析手法で情報の共有化を図る」：どのような情報の共有化を図るのか、明確でない。マクロとミクロの分析の両手法をどう結びつけて検討するのもポイントであるので、示してほしい。Page 6³の（1）の 6 に説明はあるが、具体性に欠ける。

¹ 本報告書では、資料編 P. 16（資料 4－1）に掲載

² 本報告書では、資料編 P. 17（資料 4－1）に掲載

³ 本報告書では、資料編 P. 19（資料 4－1）に掲載

2. ヒューマンエラー抑制の観点からみた安全な道路・沿道環境のあり方に関する研究

(事前評価)

○研究の必要性は理解できる。しかし、前の課題と同様、何を減らすべきかのコンセプトが明確でないと、すべきことが決まらない。施政方針演説で「今後 10 年間で交通事故死者数を半減させ」を引用しているが、過失の無い歩行者が自動車にはねられることから、スピードを出しすぎて壁に自爆することまで、事象は多様で、これら削減の優先順位が、どう検討されるのかを示して欲しい。

○大変重要なテーマであり、国総研で取り組むべきものであるという全般的な印象を受けました。しかし、私の専門分野と異なるため、詳しい意見はありません。

○必要性については、妥当と思われます。

①研究成果を試行することを念頭において実施されるようお願いします。

○必要性：極めて重要な課題であり必要性を十分に認める。

効率性：適切に計画されていると判断する。

有効性：研究成果が実際の政策に容易に反映できる道筋が用意されていると判断する。

○Page 2¹：カーブ入り口でハンドル操作開始時刻が遅いなど 5 項目：これらの要因はなんなのか。医学的特性、老化との因果関係、眼、手、足、頭など

Page 3²：走行実験など、高齢者と非高齢者の比較をどのように扱うのか、示されていない。図 5³には、示されているが。高齢者のヒューマンエラーと医学的要因の運転への影響の関係を調査することが必要ではないか。また、男性と女性の違いもよく言われる。女性の方が、人にもよろうが、自分の車優先的な面がある。他の車への注意が少なめと言うことでもある。この違いも検討する必要はないだろうか。

¹ 本報告書では、資料編 P. 25 (資料 4-2) に掲載

² 本報告書では、資料編 P. 26 (資料 4-2) に掲載

³ 本報告書では、資料編 P. 28 (資料 4-2) に掲載